

野菜灌注用殺虫剤

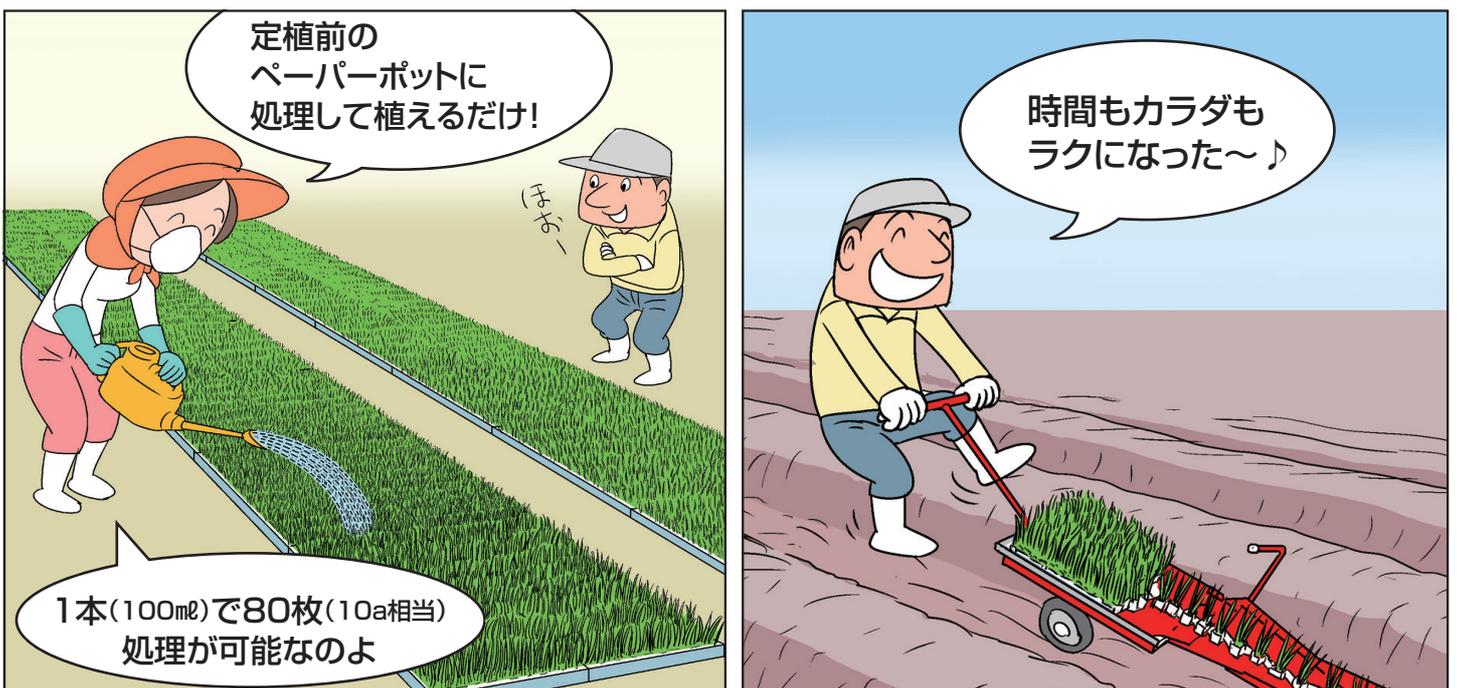
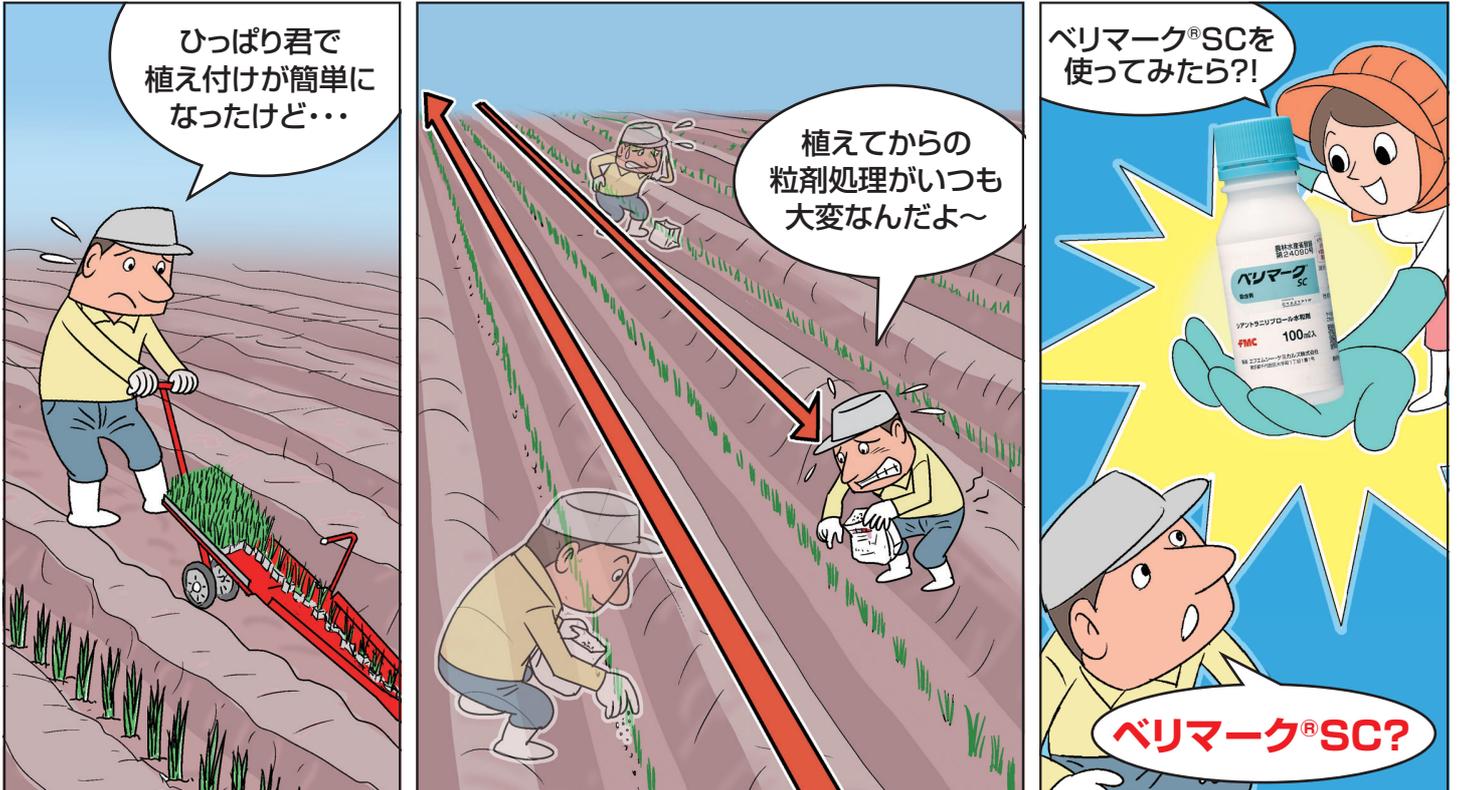
FMC

ベリマーク® SC

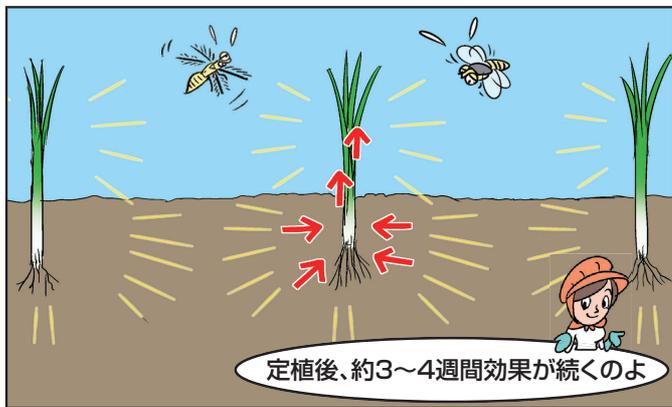
powered by
CYAZYPYR®
ACTIVE INGREDIENT



あなたもラクな灌注処理にしてみませんか？



時間短縮! カラダへの負担軽減! など、価格以上の満足度!!



1株あたりのネギアザミウマ幼虫数(平均)

【試験概要】

2017年 埼玉県久喜市(社内試験)

試験区

| 区 | 処理方法 | 希釈倍数/散布量 | 薬剤処理日 | 定植日 |
|----------|------|--------------|-------|-------|
| ベリマーク®SC | 灌注 | 400倍(0.5ℓ/枚) | 5月16日 | 5月17日 |
| 対照A剤 | 灌注 | 200倍(0.5ℓ/枚) | 5月16日 | 5月17日 |
| 無処理 | - | - | - | 5月17日 |

調査日 : 5月25日、6月1日、7日、15日

調査方法 : 展開している新葉2枚を調査部位とし、1区あたり10株を定点観察(3反復)する。

対象害虫 : ネギアザミウマ

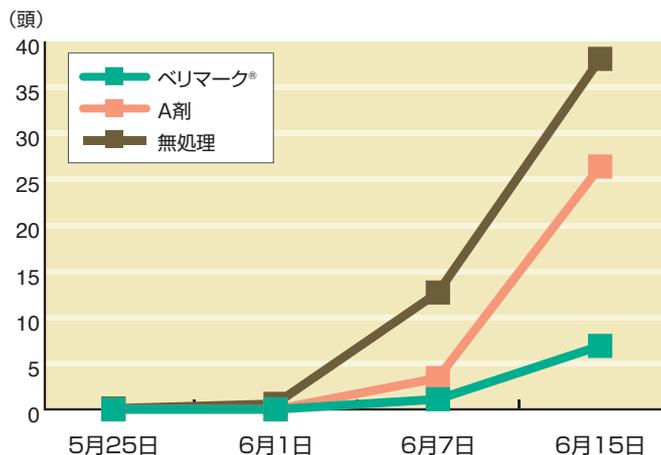
調査項目 : ネギアザミウマ(幼虫数、成虫数、被害度)



ベリマーク®処理区(6月7日)

対照剤処理区(6月7日)

無処理区(6月7日)



定植約1ヵ月後においてもベリマーク®区は無処理区と対照剤区に比べ、アザミウマ幼虫数を低く抑えており、対照剤に優る防除効果を示した。

■適用害虫と使用方法(適用表から一部抜粋)

2019年5月現在

| 作物名 | 適用害虫名 | 希釈倍数 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数 |
|-----|-------------------|------|---|----------------|---------|------|---|
| ねぎ | シロイチモジヨトウ | 400倍 | セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊(約30×60cm、 使用土壌約1.5~4ℓ)当り0.5ℓ | 育苗期後半 ~定植当日 | 1回 | 灌注 | 4回以内 (定植時までの処理は1回以内、 定植後の処理は3回以内) |
| | アザミウマ類 ハモグリバエ類 | | | | | | |

その他の適用作物 : キャベツ、はくさい、ブロッコリー、レタス、非結球レタス、カリフラワー、ほうれんそう、いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、ピーマン、なす、メロン、すいか

△効果・被害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 薬液調整後はできるだけ速やかに使用してください。
- アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけてください。
- 過度の連用を避け、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用してください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△安全使用上の注意

- 誤飲などのないように注意してください。
- 使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。処理器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

農林水産省登録 : 第23556号(デュポンベリマークSC)
第24090号(ベリマークSC)

有効成分 : シアントラニプロール … 18.7%
(通称 : サイアジビル®)

殺虫剤分類 28

殺虫剤抵抗性管理 (IRM)

一般推奨事項 : 薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、ベリマーク®SCまたは他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト
(1) Insecticide Resistance Action Committee (IRAC) ウェブサイト
(<http://www.irac-online.org>)
(2) <http://www.fmc-japan.com/Agricultural-Solutions/IRAC>

水で希釈すると残渣が認められることがありますが、品質には影響ありません。

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

©2019 FMC Corporation. All Rights Reserved. FMC、FMCロゴ、®を付した商標は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

ベリマークSC協議会

クミアイ化学工業株式会社 / 日本曹達株式会社 / 丸和バイオケミカル株式会社 (五十音順)

事務局 : エフエムシー・ケミカルズ株式会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-1 大手町パークビル8階 www.fmc-japan.com

製品情報は
こちらから

